

行政報告

産業・観光

(ワールドカップスキー)

2月13、14日にFISアルペンスキーワールドカップが開催されました。13日の大回転競技は晴天という絶好のコンディションのなか、58名の選手が疾風のように走り抜けました。また、14日の回転競技は早朝からの雨模様のなかで開催が決定されましたが、幸いにも競技開始時間の10時には奇跡的に雨も上がり72名の選手が華麗な滑りを見せてくれました。

わかつきはやた(浅貝)選手、みうらあさひ(中子)選手、そのべりゅうや(中子)選手は本大会の前走を務め、一流の選手の滑りを見るなかで、国体のワンツーフイニッシュを勝ち取ってくれました。

また、両日とも観客は5千人を超え、観客席以外のコース沿いの観客も含め、多くの皆さまが世界の一流選手の滑りに熱い視線と大きな声援を送っていただきました。

湯沢学園の子ども達も13日には小学生、14日は中学生が顔に国旗のシールを貼り、応援用の楽器を使って賑やかに応援し、この様子は世界中に配信されました。この観戦をとおして、子ども達はスキーの持つ素晴らしさを肌で感じてくれたものと思います。

また、屋外で開催されたビブドロー(上位選手が出発順を決める抽選会、大回転12日、回転13日)は、津軽三味線やジャズバンドの演奏、地元苗場観光協会やボランティアの皆さま方によって、豚汁、湯沢の地酒の振る舞い等が行われるなかで華やかに開催されました。

コース整備については、当初は1月4日から整備を予定しておりましたが、小雪暖冬の影響により、本格的な整備は1月23日へとずれ込んでしまいました。しかしながら、多くの競技役員及び高田自衛隊の皆さまから昼夜を問わない献身的なご努力をいただいた結果、国際スキー連盟の役員から称賛される滑走コースが完成いたしました。

この大会を開催するためにご協賛いただきましたスポンサー各社、コース整備を行っていただいた競技役員と80名の高田自衛隊の皆さま、全日本スキー連盟、新潟県スキー連盟、会場を提供していただいた苗場プリンスホテル、そして開催のために、ご支援・ご協力をいただきました全ての皆さまに、心から感謝を申し上げます。

(観光宣伝とイベント)

11月、12月は暖かい日が続き、降雪が12月末となったことからスキー場の

オープンが例年よりも大幅に遅れました。この影響で今シーズンのスキー場の入り込み状況は、11月は前年比24.3%、12月は80.4%と落ち込みました。年末年始の6日間の前年比も95.4%となりました。

1月は、雪不足で万全のコース状況ではないスキー場もありましたが、全体では前年比106%と前年を大きく上回りました。しかしながら12月の減少が大きく、11月から1月末までの総入り込み数は105万4,650人となり、前年比3万3,830人減の96.9%となっております。

2月までの宿泊状況については、温泉旅館等の宿泊は比較的順調との報告を受けております。また、訪日外国人の宿泊数は、好調だった昨シーズンを大幅に上回り極めて好調で、特に台湾・香港のお客さまが多く、駅構内や街角でも多くの外国人を見かけるようになりました。ビザ発給緩和や円安傾向などの要因に加え、湯沢町が長年実施してきた誘客策と、関係事業者の皆さまが取り組んでこられた外国人対応が実を結びつつあるものと思っております。また、今年度も訪日外国人観光客獲得に向けて新潟県などと連携し、中国、韓国、インドネシア、台湾などの報道機関や旅行会社の招聘事業を実施しております。

そして、今年も湯沢町全域で行われる冬季イベントを集約した情報誌と、お客さまの再来訪を促すスタンプラリーを合わせた「ALL YUZAWA スタンプラリー」を実施しております。また、第64回「湯沢温泉雪まつり」をはじめ、各地区でカーニバルやイベントが展開されていますので、町民の皆さまと一緒に、湯沢町のおもてなしの心をお客さまに伝えてまいります。

(農業の振興)

昨年12月24日に生産調整の平成28年度配分が公表されました。湯沢町においては前年比で生産量が約2トン削減され、面積換算で1,700平方メートルの微減となりました。平成26年産の魚沼産コシヒカリが順調に販売され、在庫のだぶつきが解消されたことが理由と考えられます。

(有害鳥獣被害防止対策)

平成27年度は山の実が豊作であったことから、有害鳥獣の出没件数・被害数ともに減少し、ニホンザルの駆除については32頭と前年の53頭に比べ大幅に減少いたしました。追い払い組織は昨年に引き続き4組織(滝の又、芝原、七谷切、大島)が活動し、集落共同での取り組みに対して支援を行いました。

野生動物の隠れ場対策として農地近隣の杉林の伐採、耕作放棄地の草刈りなどの緩衝帯整備を旭原、大島の2町内で実施いたしました。また、大島町内には平成28年度に大規模電気柵の設置を予定しております。

今年度新規事業の電気柵設置補助事業は11件、狩猟免許取得補助事業は13名の利用がありました。徐々に有害鳥獣対策の意識が高まってきたものと考え

ております。

福祉・健康

(社会福祉)

12月16日に社会福祉協議会との共催で役場大会議室において、湯沢町福祉関係者合同研修会を実施いたしました。当日は約80名が参加し、「成年後見制度」について研修をしていただきました。

(「湯の街ゆざわの健康調査」アンケート)

今年度から湯沢町と新潟大学が協力して行っている「湯の街ゆざわの健康調査」のうち、「生活習慣に関する」アンケートについて、配布数は5,560通で、回収数は3,455通、回収率は62.1%となり、想定していた60%を上回る結果となりました。アンケートにお答えいただいた方への個人報告書は、個別に2月中旬までに発送が完了しており、今後は住民の異動状況と介護保険情報を参照しながら、生活習慣と健康状態との関連などについて、新潟大学が中心となって調査、研究をしてまいります。

(成人用肺炎球菌ワクチン接種)

昨年度から定期接種化された成人用肺炎球菌ワクチン接種について、今年度も対象者である65歳以上の節目年齢の方を対象に実施いたしました。昨年6月から7月、そして今年1月から2月の2回に分けて湯沢病院での接種機会を設け、接種済者は240人ほどとなっております。対象者が接種機会を逸することがないように、引き続き制度の周知に努めてまいります。

(インフルエンザ予防接種事業)

今年度も65歳以上の方と、60から64歳の方で国が定めた障がいのある方を対象に、インフルエンザ予防接種費用の一部を助成いたしました。接種にかかる助成者の数は約1,970人と、昨年度の実績を上回りました。今年度は、昨年度までの3価ワクチンから4価ワクチンに変更となり、自己負担額が増えましたが、より幅広いウイルスに対応できるようになりました。

(住民検診)

今年度の住民検診は1月末で終了し、国保の特定健診は555名とほぼ昨年度と同じ実績となりましたが、受診対象者が減少するなか、受診率は伸びてきております。また引き続き受診勧奨を継続してまいります。後期高齢者の基本検診も457人とほぼ昨年度並みの結果となりました。がん検診については、対象

者の少なかった子宮頸がん検診が減少いたしました。胃がん、大腸がんなどその他すべてのがん検診で昨年の実績を上回る結果となりました。特に乳がん検診は 274 人と、昨年度の 222 人から大きく増加いたしました。検診の重要性については、これからも周知に努めてまいります。

(生活習慣病予防対策)

昨年度から開始した慢性腎臓病（CKD）対策事業に加え、今年度は糖尿病予防のための事業を行っております。住民健診または国保ドックの結果、一定の糖代謝異常となった方を対象に、75g ブドウ糖負荷検査を実施し、糖尿病予防教室を開き、検査結果を説明いたします。事業の経過は、12 月実施分までで検査対象者 189 人のうち検査受診者 61 人、糖尿病教室の参加者 37 人となっております。また、人工透析の原因のおよそ 4 割が糖尿病性腎症であり、糖尿病の早期発見、早期治療、重症化予防は重要な課題となっております。これからも、対象となる方に積極的に声をかけ、行動改善の実践につながるよう取り組んでまいります。

社会基盤整備等

(主要公共事業等)

今年度予定しておりました維持管理関連事業の舗装修繕、消雪パイプフレッシュ事業は全て完了いたしました。橋梁点検も現場作業は完了し、報告書類を作成しております。

三俣地区の下水道事業では、浄化センター建設工事は 12 月中に今年度分は完了いたしました。繰越工事となる管渠埋設工事についても発注いたしました。

水道事業では、三俣の水源井戸ポンプが 1 月に故障したため予算を専決させていただき取替工事を実施いたしました。

(新ごみ処理施設の進捗状況)

平成 35 年度の供用開始を目指し、準備を進めている新ごみ処理施設については、昨年 11 月 1 日から建設地の公募を行っており、これまでの問合せは 19 件、説明会の開催は 3 回となっております。4 月末が公募の締め切りとなりますが、この建設地の選定が最大の懸案事項となっていることから、早期の決定を願っております。

教育・スポーツ・芸術等

(保育園と湯沢学園の子ども達)

年長児は、2月24日に小学校への体験入学があり、湯沢学園に通うことに胸を躍らせていました。湯沢学園では、2月に入りインフルエンザが流行し、6年生の1学級と4年生が学級閉鎖となりました。

2月5日、小学校はワールドカップ開催記念としてアルペンスキー競技大会が中里スキー場で開催されました。午前は1年生から4年生まで、午後から5・6年生の児童が元気に滑っていました。また、2月9日と12日には、第1グラウンドで4年生から6年生のクロスカンリースキーの記録会が開催され、子ども達は元気に、そして力強く滑り、ゴールに駆け込んでいました。

(湯沢認定こども園開園準備)

湯沢認定こども園は、4月4日の開園式に向け最終準備をしております。すでに真新しい机や椅子等も準備され、2月19日、26日には園児向けに給食試食会を開催し、新しい厨房での給食準備も始まっております。

1月22日に元埼玉県教育委員長の松井和^{まついかず}さんを講師にお招きし、「子育て・親育て」を題材に研修会を開催いたしました。この研修会には南魚沼市からも多くの保育士や職員に参加いただき、認定こども園運営に繋がる話もあり、貴重な講演となりました。今後は保護者等の皆さまにも聞いていただきたいと思いますと考えております。

総合子育て支援センター（ジャンプラネット）内に開設したこども広場は、開設以来多くの利用者があり、前年の広場事業に比べ170%の利用者増となっております。

(各種全国大会等)

今シーズンも湯沢町の中学生・高校生スキー選手が県大会を勝ち抜き、全国大会に出場いたしました。中学生は全国中学校スキー大会^{かいせゆな}に貝瀬優菜（萩原：9年生）選手、金井鈴花^{かないりんか}（中子：8年生）選手の2名が出場し健闘してくれました。高校生は3名が全国高等学校スキー大会に出場し、園部竜也^{そのべりゅうや}（中子）選手が回転競技で7位入賞、若月隼太^{わかつきはやた}（浅貝）選手は回転競技が2位、三浦旭^{みうらあさひ}（中子）選手が大回転競技で4位と素晴らしい成績をおさめてくれたのを皮切りに、2月23日開催の岩手国体では若月隼太選手と三浦旭選手が大回転でワンツーフィニッシュという、湯沢町にとっても、新潟県にとっても初めてとなる素晴らしい成績をおさめてくれました。

アルペンスキーワールドカップ湯沢苗場大会と同日、南魚沼市で開催されたスペシャルオリックスには、クロスカンリースキー^{すみやまさと}に角谷真人（芝原）選手が出場し2位と健闘してくれました。角谷選手はポーランドで開催されたINASスキー選手権にも出場いたしました。

フロアホッケーには湯沢学園 3 年生の^{たむらかずま}田村一真（谷地）選手が出場し、1 位と大活躍いたしました。

また、レスリングで八海高校 2 年生の^{たかいりょうと}高井遼人（一之町）選手が新潟県大会を勝ち抜き、3 月 27 日から開催される全国高等学校選抜レスリング大会に出場することが決定しております。

（越後湯沢全国童画展）

日本童画の父、川上四郎記念「第 20 回 越後湯沢全国童画展」には、全国から 203 点の作品をお寄せいただきました。審査の結果、大賞には東京都の野間^{のま}祥子^{さちこ}さんが描いた、「はじめてうそついた日」、最優秀賞は^{ひやくし}「百子ひな車」^{ぐるま}を描いた粕加屋伊^{かすが}代^{やいくよ}さん、優秀賞には「約束の場所」を描いた京都市の北村依^{きたむらい}緒^おさんが選ばれたほか、奨励賞 3 点、佳作 5 点、入選 40 点が決定いたしました。入賞・入選作品は、3 月 5 日から 14 日まで湯沢町公民館に展示しておりますので、多くの皆さまからご覧いただきたいと思ひます。

3 月 5 日の表彰式には入賞者をお迎えし表彰するとともに、第 20 回展を記念し、これまで童画の発展に尽くしていただいた皆さまに感謝状を贈呈いたしました。

その他の行事等

（湯沢町消防出初め式及び文化財防火デー消防訓練）

1 月 6 日に消防出初め式を行い、消防車両等 7 台による防火パレードを行うとともに、1 月 26 日の文化財防火デーに合わせ、新潟県指定文化財である三俣脇本陣池田家での火災発生を想定した消防訓練を、三俣地区の皆さんと一緒に実施いたしました。

（総合計画後期基本計画）

湯沢町総合計画後期基本計画は、前期基本計画（平成 23～27 年度）の取り組み状況を評価し、平成 28～32 年度の取組の方向性及び具体的な事業を示すものであります。平成 26 年 10 月に湯沢町総合計画審議会に諮問し、その後 6 回の審議を経て平成 28 年 1 月 20 日に答申を受けてパブリックコメントを実施し、今議会に上程いたしました。

（町県民税及び国民健康保険税の課税誤り）

昨年 12 月に判明した過年度課税分の課税誤りにつきましては、該当者 16 名の方にお詫びを兼ねた課税取消通知書を送付するとともに、還付対象者 15 名の

方には1月中にすべて返金処理を行いました。

今後は、より慎重な事務と適正な課税に努めてまいります。

以上、行政報告を申し上げます。